

令和8年度 内子高等学校 シラバス

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2単位	学年	3学年
教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)	副教材等	家庭科ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会) 調理実習ノート基礎編 (愛媛県高等学校家庭科教育研究会)				

1 学習の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を養う。

2 学習の内容

学期	単元・項目	学習の内容	備考
第1学期	第6章 食生活をつくる	・よりよい食習慣を身に付け、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 ・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。 ・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身に付ける。	期末考查
第2学期	第2章 子どもと共に育つ 第8章 住生活をつくる	・命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。 ・子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え、生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 ・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。	期末考查
第3学期	第9章 生活を設計する	・人生の目標を達成し、自分らしい生活ができるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。 ・これからの持続可能な社会を構築していくために、何ができるか考えて実践する。	

3 評価の規準

【知識・技能】

生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】

生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

【主体的に学習に取り組む態度】

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

4 評価方法

家庭科ノート、レポート、ワークシート、学習プリント、実験・実習レポートなどの評価について、定期考査後に評価します。

5 学習のアドバイス

家庭クラブ活動に積極的に参加しましょう。ホームプロジェクトを通して問題解決能力を身に付け、家庭生活の充実を図りましょう。よりよく生活をするためにはどうすればよいか考え、実践していきましょう。